

WEBで読む「建設通信新聞」

建設通信新聞 電子版
⇒http://kensetsunews.jp

ケータイで読む



PCで「建設通信新聞」記事検索・メール配信
日経テレコン21/Factiva/G-Search/NewsWatch

工事情報の検索なら「WEB版 建設工事の動き」
⇒http://www.kensetsunews.com/ugoki.html

http://m-kensetsu.jp

THE KENSETSU TSUSHIN SHIMBUN

建設通信新聞

Architectures, Constructions & Engineerings News (Daily)

2013年(平成25年)6月5日(水曜日) (第三種郵便物認可)

梅雨時の注意点

好評をいただいた連載『新築工事へのフィードバック』。本連載はその続編として、スタートする。今回はリニューアル工事の大まかな項目の中から一部分を紹介したが、今回は具体的な不具合事例から見る深刻な問題点や、季節柄発生する問題点なども取り上げていく。

* *

これから梅雨に向かい、建築現場では天候や温度・湿度の管理について、十分に気を使っているものと思うが、仕上げ材の施工は下地の状態によって不具合が生じることが多い。

マンション
大規模修繕

新築工事への
フィードバックII

1



写真1

写真1は、加硫ゴムシート防水内部に水が溜まり、ウォータージェット状態になっていたものである。防水層に圧力をかけても、どこからもエアや水が出てくることはなく、防水層の破断等不具合も確認できなかったためコンクリートが適切に乾燥する前に防水施工した可能性も

下地水分量が品質に影響 仕上げ材の付着力低下

原因の1つであると推察される。このケースでは既存防水層を撤去し、下地を乾燥させた上で新規防水シートを敷設することで、対策を講じた。

写真2は、ウレタン塗膜防水の膨れである。屋上や庇など直射の当たる部分では、特に熱の影響が強く、コンクリート内部水分の影響によって防水層を膨れさせてしまうことが多々あ

る。シート防水であれば、施工の際にエアを混入してしまうことも考えられるが、塗布防水の場合は、その可能性は低いと考えられる。

防水施工に限らず、タイルや塗装・シーリング等仕上げ材のほぼすべては、施工面の水分量が過多であれば、品質に大きく影響がでるため十分な管理が必要である。躯体と仕上げ材の間



写真2

に水分が介在すれば、仕上げ材の付着力は著しく低下し、塗布系の材料等では十分な硬化が得られなくなる。

感覚的なものであるが、マンションリニューアルの現場から見ると、一般的に不具合が多く見られるのは、比較的上階であると感じられる。防水工事や仕

上げ工事は、十分な工期が得られずに施工しているという声も現場では聞こえてくる。

工程管理を優先して、品質管理を怠ると結果として不具合が生じ、その手直しに対して時間も労力も費やすこととなる。品質が確保されて、初めて製品として納めることができるという原点に立ち返って従事してほしいと強く願う。

* *

次回以降は、漏水原因について触れる。これからは雨の多くなる季節に入るが、現在施工中の現場で今一度、各所の納まりを確認するきっかけとなれば幸いである。